

もくじ

1. かちかち山 2
2. はなさかじいさん26
3. さるかに合戦46
4. 虫愛ずる姫君70
5. トラとキツネ92
6. つるのおんがえし 108

かちかち山^{やま}

原作： 日本のお話
イラスト： サトウ アユミ
編集： YellowBirdProject

7

「おい、ばあさんや、^{きょう}今日の^{ばんめし}晩飯は^{じる}たぬき汁だぞ！」

おじいさんは^{つか}捕まえた^{たぬき}たぬきを、^{いえ}家の中^{なか}につるしました。

「ばあさんや、わしはまた^{はたけ}畑^{もど}に戻るが、
たぬきがなにを^い言っても、
^{けっ}決して^{なわ}この^と縄を解いてはいけないよ」

おじいさんは^いそう^{いえ}言^でって、家を出ていきました。

おばあさんは^{こんや}今夜の^{じる}たぬき汁^いに入れる、^{はじ}もちをつき^{はじめ}始めました。



きょう みやこ きぞく やしき ひとり ひめぎみ
 むかし、京の都の、とある貴族のお屋敷に、一人の姫君
 がいました。

ひめぎみ か もの むすめ ゆうめい
 この姫君は、とても変わり者の娘として、有名でした。
 ひめぎみ むし だいす
 というのも、この姫君は『虫』が大好きだったのです。

ひめぎみ じぶん へや そと み むし
 姫君は自分の部屋で、外で見つけてきたさまざまな虫を、
 い か
 かごに入れて飼っていました。

やしき はたら じょかん むし にがて ひめぎみ
 お屋敷で働く女官たちは、みんな虫が苦手で、姫君の
 へや はい とき むし
 部屋に入る時は、いつも虫におびえていました。



それから三日三晩、おつうは飲まず食わずで機を織り
みっかみばん の く はた お
 つづ
 続けました。
よっかめ ばん すがた へ や で
 四日目の晩に、やつれた姿で部屋から出てきたおつう
やすけ いったん おりもの さ だ
 は、弥助に一反の織物を差し出しました。

よくあさ やすけ おりもの も まち で
 翌朝、弥助はさっそく織物を持って町へ出かけました。

おりもの たか ね ごふくや か と
 織物はとても高い値で、呉服屋が買い取ってくれまし
 た。

ふたり かね あいだ た もの
 二人はそのお金で、しばらくの間、食べ物にこまる
く
 ことなく暮らしていくことができました。

なが ふゆ つづ しだい かね た もの
 しかし、長い冬が続き、次第にまた、お金も食べ物も
つ
 尽きてきました。

